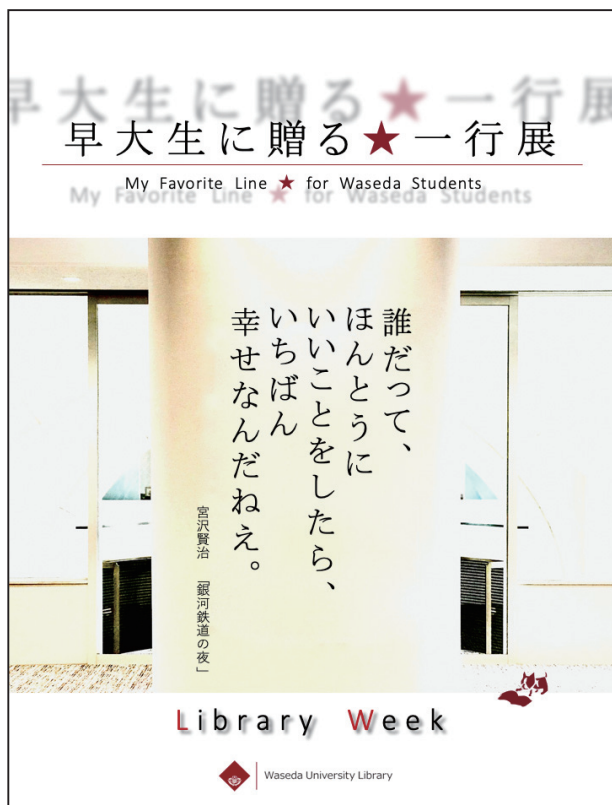


「早大生に贈る★一行展」開催報告

伊藤 岳（利用者支援課*）

*2022年5月末退職



＜ポスター＞

「社会人になって働き始めたら、本を読む時間は随分と限られるだろう。残りの2年間は沢山勉強しようと、力強く背中を押してくれた一行たちであった」

これは、2022年4月、中央図書館と所沢図書館において行われた「早大生に贈る★一行展」に寄せられた感想だ。

近年、Library Week プログラムの一つとして定番となったこの一行展。今春は、開催に先立って、「新しく早大生になる学生に向けて、あなたが好きな一行を贈ってみませんか？」として、教職員や在学生から募ることとした。

募集の内容は主に次の3点だ。

- 一行（出典は、本学図書館に所蔵があること）
- 書誌情報〔タイトル、著者、出版年、出版社、頁数 等〕
- 一行を選んだ理由／メッセージ

当初、例年に倣って約30点の展示を企画していたところ、予想より多くの作品が寄せられたため、選出せざるを得なかった。ただ、展示スペースを増やすことで、最終的に、予定より多い、39の“一行”を掲出することができた。

この企画は、文字通り「早大生（主に新入生）に贈る」ものであるため、寄せられた一行には、それぞれに選者の想いがこもっている。今回応募のあった全ての一行と、そこに添えられた個のメッセージを、ここで紹介したいところであるが、紙面の関係上、その中から何点かを抜粋する。

また、実際の掲出にあたっては、英語学位プログラムの学生のために、原文（英語）があるものや英訳が出版されているものは併記し、日本語しかない“一行”には、GIST（要旨）として図書館スタッフによる英訳を添えている。

○反省することを止めることは、人間であることを止めることであるかもしれない。

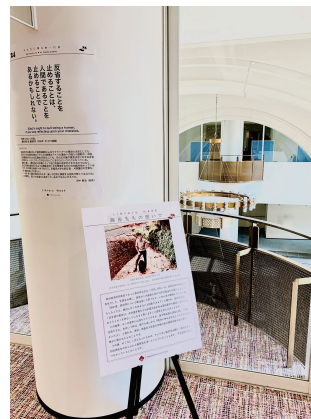
『学問へのひとつの道』藤原保信著、藤原貞子 1995年（P.215 掲載）

2022年2月以降のロシア政府指導者によるウクライナへの侵攻の決定にしても、2021年1月の退任目前のアメリカ大統領のアメリカ議会への侵入の扇動や、米大統領選挙そのものの正統性の否定にしても、自らの行動や意思決定に対する反省の欠如から、人としてやってはならないことを行うということになっている。

動物と違い、人間は自己の本能によって自己利益の追求だけをするのではなく、自己の行動の結果がどのような帰結を招くかを推測するだけの知能を授かっているので、その知能を活用すべきであろう。早稲田大学の創立者・大隈重信の言葉を、今一度振り返っておきたい。

「一身一家一国家の為のみならず、進んで世界に貢献する抱負が無くてはならぬ」この理念も、自己への反省から始まっているのではないだろうか。

田中 愛治（総長）



田中総長から寄せられたこの一行には、藤原先生とのエピソードも添えられていたため、当時の田中先生のお写真と合わせて掲出するに至った（上、展示風景）。

Library Week
藤原先生の想いで



【田中愛治先生 長崎県平戸にて】
大学2年の夏休み、ゼミ選考の9ヶ月ほど前に、夏合宿後の旅行で撮られたものです。

政治経済学部教授であった藤原保信先生（1935-1994）は、田中先生が私淑した先生でした。学部生の頃に、藤原ゼミの面接を受けた際の逸話もお伺いしました。「田中君、政治学について勘が良いと思うけど、いかに勉強していないね。もし入ったら、絶対にゼミを休まないで約束できる？」と聞かれ、田中先生は「空手部の稽古は、大学選手権などの全国大会がある前は集中で練習しますので、おそらくゼミを休むことになると思います」と返答されたとのことでした。その結果、ゼミの選考には落ちたそうですが、後で研究室を訪ねた際に「君は正直だなあ。ああいう時は、嘘でも良いから『絶対に休みません』って言わなきゃダメだよ」と笑われ、普段、真面目で正直な印象のある藤原先生のお言葉に、随分と驚かれたとのことでした。その後、ゼミなしで子となったものの、アメリカに留学する際に、藤原先生と内田満先生のお二人から推薦状を書いていただいたこともあり、今の田中先生につながっているとのことでした。

Waseda University Library

<展示パネル：田中総長>

○すべての命題は、同等の価値をもつ。世界の意義は、世界の外側になくなくてはならない。世界のなかでは、すべては、そのあるがままにある。そして、すべては、起こるがままに起こる。世界のなかには、いかなる価値もない。

『論理哲学論（『ラッセル；ウィトゲンシュタイン；ホワイトヘッド』）ルートヴィヒ・ウィトゲンシュタイン、中央公論社 1980 年（P. 424 掲載）

どんな時代であれ、たくさん研究しましょう。研究オタクを大歓迎しています！

赤尾 健一（社会科学総合学術院 教授）

○すべてあなかには、いにしへの言のこれること多し

『玉勝間』本居宣長著、村岡典嗣校訂、岩波書店 1934 年（P. 301 掲載）

図書館では先人の時空を超えた知の蓄積に圧倒され、自分の小ささに気付くかもしれません。同時に自身の将来への可能性を見出せる一冊と出会えるのが、この場所です。

笹原 宏之（社会科学総合学術院 教授）

○「いろんなことを覚えて、鞭のように鋭い切れ者になつたって、それで仕合わせになれなかったら、一体何の甲斐があるんだろ」

『フラニーとゾーイー』サリンジャー著、野崎孝訳、新潮社 1991 年（P. 136 掲載）

ネット言説をはじめ、他の人を論破したり、マウントをとったりといった、そんな風潮が強く感じられる。大学での学びは、舌鋒鋭い論者になるためだけではなく、多様性を受容する、豊かな感性を養うためのものであって欲しい。

つばQ郎（スタッフ）

○学問は多く相関係す。はじめより一専門学のみを修むれば、到底其蘊奥を窮むること能はざるべし。

『学生訓。続』大町桂月著、博文館 1902 年（P. 71 掲載）

120 年も昔に出版された学生訓の言葉ですが、今にも通じるところがあり選びました。大学では視野を狭めず、自分の専門分野と全く関係のない教養を、たくさん学んでください。ところで、120 年も前の図書、こんなものがこの図書館にはごろごろと所蔵されています。すぐありませんか？ぜひ、多くの先人の叡智と出逢ってください。

元学生（スタッフ）

○一事を必ずなさんと思はば、他の事の破るるをもいたむべからず。人の嘲りをも恥づべからず。万事にかへずしては、一の大事成るべからず。

『徒然草 新潮日本古典集成』第百八十八段 吉田兼好著、木藤才藏校注、新潮社 1977 年（P. 204 掲載）

人生は帯に短し、襷に長し。かけがえのない大学での歳月を、愉しむ！

Rick T（図書館 職員）

○多少、見切り発車の感があっても、とにかくスタートを切ろうじゃないか。

『進みながら強くなる：欲望道徳論』鹿島茂著、集英社 2015 年（P. 4 掲載）

「まだちゃんと準備できていないから…」と先延ばしにしている、いつまでもスタートできません。始めてしまえば何とかできます。まずは一歩踏み出してみてください！

トライアル&エラー（図書館 職員）

○人間は誰でも心の底にしいんと静かな湖を持つべきなのだ

『茨木のり子詩集』谷川俊太郎選、岩波書店 2014 年（P. 213 掲載）

正直なところ、わたしは四月が苦手です。とくに大勢に混じってする自己紹介は、個性の競争みたいに感じてしまいます。自分のことをうまく説明しなきゃ、目立たなきゃと焦っていつもしどろもどろになります。でも、ほんとうは、嫌なら無理に自己主張しなくたっていいはずですよ。

だからわたしは、茨木のり子さんのように、心の底に

静かな湖を秘めている人でありたいと思っています。

孤独との付き合い方を、みなさんはどう考えますか？

C. N. (文学部 学生)

〇「人殺しを抱きしめる気持ちってどう？」

「人殺して、あったかいんだなあ」

『解散後全劇作』：「贖作・罪と罰」野田秀樹著、新潮社 1998 年 (P. 160 掲載)

いろんなところへ行って、いろんな人に会ってください。そして、いろんな人の、いろんな面に触れてください。人って、思った以上に凸凹していて面白いですよ。

でも、その凸凹に触れる機会は、社会に出て組織で働くようになると、圧倒的に減ってしまうのです。悲しいけど。

伊藤 岳 (早稲田大学 職員)

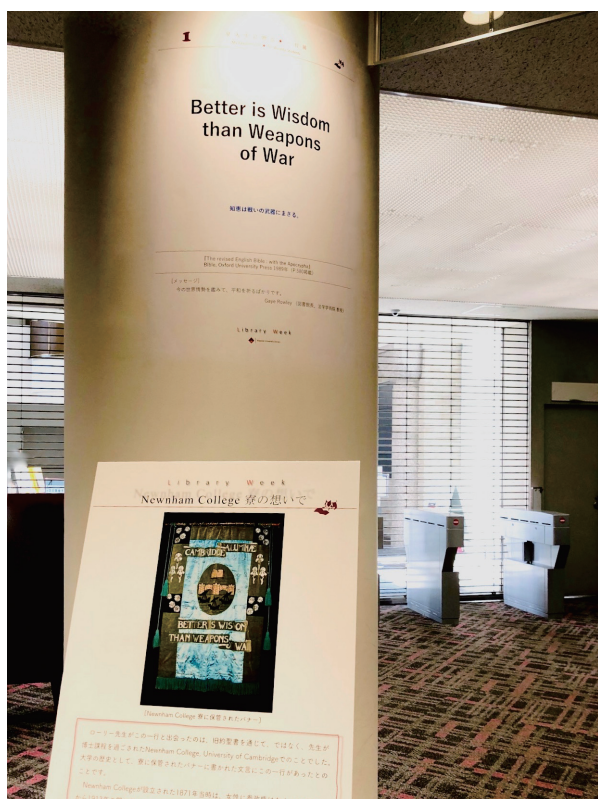
〇Better is Wisdom than Weapons of War

(知恵は戦いの武器にまさる)

『The revised English Bible: with the Apocrypha』Bible, Oxford University Press 1989 年 (P. 580 掲載)

今の世界情勢を鑑みて、平和を祈るばかりです。

Gaye Rowley (図書館長、法学学術院 教授)



この一行にも、ローリー館長とこの言葉との出会いが書き添えられていたため、「Newnham College 寮の想いで」と題し、田中総長のエピソード同様、パネルにて紹介することとした (上、展示風景)。

[Newnham College 寮の想いで]

ローリー先生がこの一行と出会ったのは、旧約聖書を通じて、ではなく、先生が博士課程を過ごされた Newnham College, University of Cambridge でのことでした。大学の歴史として、寮に保管されたバナーに書かれた文言にこの一行があったとのことです。



〈Newnham College 寮に保管されたバナー〉

Newnham College が設立された 1871 年当時は、女性に参政権はなく、1908 年から 1913 年の間に行われた参政権運動では、この一行をバナーに縫い、掲げたという歴史を持ちます。

第一次世界大戦後に婦人参政権を得るものの、実情は、大卒、30 歳以上、不動産所持者... などの条件付きであり、男女を問わない (21 歳以上の) 普通選挙権になるには、1928 年まで待たなければなりませんでした。

最後に、今回、この一行展に寄せられた感想をもう少し紹介しておきたい。

「図書館とは、まさに『学際』のフィールドです。関連する学問を得るために必要不可欠なものでしょう。『教養の聖域』たるライブラリーで、学問を進めることこそ、学従たる者の中心です。ここにはさまざま広い情報が交わされています。やさしさも、新たな研究も、そして『人殺し』かもしれないシグキ的なものも」

「一行を選んだ皆様が、どのような背景や意図を持ってそれを選ぶに至ったか、詳しく知りたいと感じました。“好きな一行”ではなく、成人前後の人間に贈る一行というところが、選んだ方々の人生を想像するようでとても不思議です。版や出版社によって解説者が異なる本がありますが、その解説者の像を勝手につくり上げていくのに似た謎の興奮が…。なんにせよ、この展示で今まで以上に本を読む人が増えると嬉しいです」

全 39 点の“一行”は、開催期間中 [2022. 4. 4-28] 図書館 SNS でも紹介したので、ご興味のある方はこちらをご覧ください。

[Facebook] <https://www.facebook.com/WasedaU.WUL>

[Twitter] https://twitter.com/waseda_univ_WUL

以上